

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和4年2月28日

北海道運輸局

協議会名:安平町地域公共交通協議会

①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局における 二次評価結果	備考
	②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針	評価結果	
<p>【事業内容】 (1)住民ヒアリング調査(意見交換会) (2)交通事業者ヒアリング調査 (3)地域公共交通計画(案)策定に向けた取りまとめ</p> <p>【結果概要】 ・住民ヒアリング調査では、公共交通の利用に際しての課題を把握し、解決方策を検討するための情報収集を行った。 ・交通事業者ヒアリング調査では、経営状況や事業の課題を把握したほか、生産性向上やサービス間連携及び新サービスの可能性等をざっくりとした意見交換により探った。 ・今回実施した各種調査から、潜在的な需要も含め、地域にとって最適な公共交通像及び施策等を検討し、協議会に諮るための骨子案を作成した。 ・今後は協議会の検討を経て、将来に繋がるような地域公共交通計画として最終的にとりまとめていく。</p>	A	<p>・今後、パブリックコメントの実施及び協議会の検討を経て、令和4年度5月末に安平町地域公共交通計画として最終的にとりまとめる。計画の骨子案は次のとおり。</p> <p>対象区域 安平町内全域 計画期間 令和4年度から令和8年度 基本理念 歴史ある鉄道の維持を基本として、既存輸送資源を存分に活用して、将来の魅力ある地域社会を見据えた便利で利用される公共交通を目指す 基本方針 移動目的に合わせた適切な公共交通の維持・改善とICT技術等の多様な連携による利便性が高く、持続可能な地域公共交通の実現</p>	<p>・事業は、計画どおり実施されている。 ・今後、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。</p>	

安平町地域公共交通協議会

令和3年4月7日設置



概要

安平町は、北海道胆振管内の東部に位置し、人口7,408人(2021年11月末現在、65歳以上老年人口割合37.7%)、総面積237.1km²、新千歳空港から約17kmの距離にあるまちで、北海道胆振東部地震で大きな被害を受けたことにより加速度的に人口減少が進む地域ではあるが、存続が危ぶまれている鉄道やバス、ハイヤーの役割分担と共存を図りながら効果的で持続可能な体制の構築を進め、震災前よりも魅力的で住みよいまちづくりを目指している。

○地域公共交通の現況

- ・JR石勝線(追分駅)、JR室蘭線(追分駅、安平駅、早来駅、遠浅駅)
- ・あつまバス(株)(苫小牧線、千歳線等)・循環バス(町内4地区を結ぶ町営バス)
- ・デマンドバス(商工会と追分ハイヤーによる小地域内を移動する予約制乗合バス)
- ・(有)追分ハイヤー・スクールバス(5路線・町営)・福祉輸送(1事業・町営)

○地域公共交通の課題

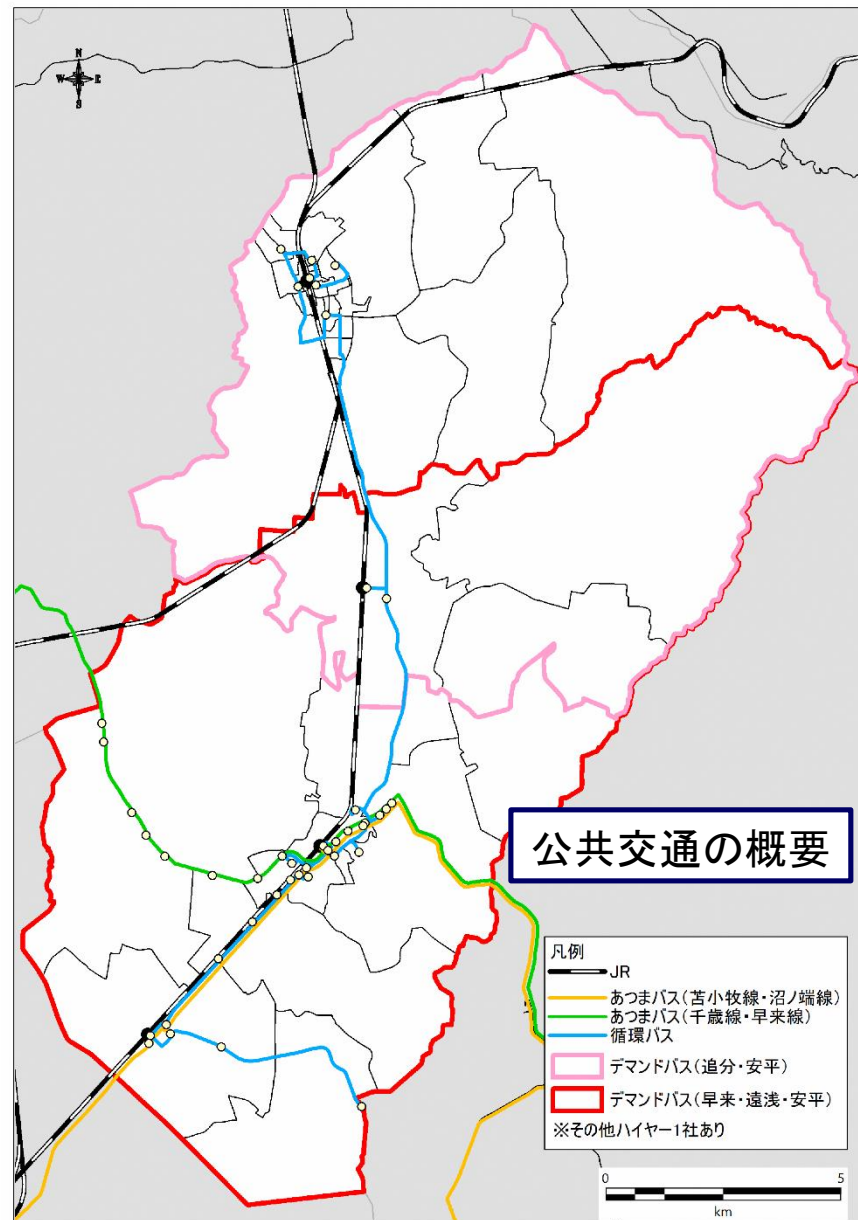
- ・まちづくりと連携した機能的で利便性の高い調和のとれたサービスの構築(特に、震災や新型コロナ等の影響を踏まえた見直しと幹線からラストマイルまで気の利いた戦略、インフラとして費用負担を含めた納得性の高いサービスづくり、運転手不足)

○調査の主な内容(以下、補助金対象の内容のみ掲載)

- (1)住民ヒアリング調査(意見交換会)
- (2)交通事業者ヒアリング調査
- (3)地域公共交通計画(案)策定に向けた取りまとめ

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- ・令和3年4月7日
安平町地域公共交通協議会の設立(規約・規程、役員、事業及び予算)について
- ・令和3年6月25日
地域公共交通計画の策定をはじめとするR3地域公共交通対策事業について
地域内フィーダー系統確保維持計画について ほか
- ・令和4年1月19日
地域公共交通計画の策定進捗共有、確保維持改善事業の事業評価 ほか



安平町地域公共交通協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

(1) 住民ヒアリング調査（令和3年10月6日～10月22日の間で5回開催、延べ43名参加）

- ・地域住民の公共交通の利用状況や地域公共交通の現状について知ってもらう機会の提供、公共交通の利用に際しての課題を把握し、解決策を検討するための情報収集を目的とした意見交換会を追分地区、安平地区、早来地区、遠浅地区の各地区で開催。
- ・町外に出る際はJRやあつまバス、町内移動では循環バスやデマンドバスを使い分けて上手に活用している声があるなか、まだまだ知られていない交通機関や支援制度の存在、フリー乗降区間の拡充等の自宅からできるだけ近いところで乗降できる高齢社会に対応したきめ細やかなサービスの提供を期待する声のほか、曜日を分けての運行や貨物の混載等の特徴的で新しいニーズも把握することができた。
- ・調査結果の概要については、広報あびらR3.12月号で周知した。



JRについて

- ・苫小牧や千歳など町外に移動するときに使う。
- ・ホームの階段の上り下りが大変。
- ・あつまバスなど、他の公共交通と接続時間がわからない。

あつまバスについて

- ・町外に行く場合、早来駅まで遠いのでバス停が近いあつまバスを使う。
- ・沼ノ端に通院するときはあつまバスを使う。

循環バスについて

- ・そもそもどこをいつ走っているか、知らない。
- ・早来市街地の停留所から商店までが遠く、使いづらい。
- ・特定の曜日に分けてもいいので運行間隔を短くしてほしい。
- ・人以外に物（例：道の駅への納品物）も運べると良い。
- ・フリー乗降（手上げで乗り降りできる）区間を拡充してほしい。

デマンドバスについて

- ・予約制だと予定を変更しづらい。
- ・スマートフォンでの予約は高齢者には難しい。
- ・土日にもパークゴルフ等のために運行してほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、できれば相乗りは避けたい。
- ・デマンドバスについて、そもそもどういうものかわからない。
- ・デマンドバスとJRとの接続が良くない。

ハイヤーについて

- ・便利で緊急時も使えるが、通常時や駅からの乗り継ぎには料金が低い。
- ・1台しか運行していないため、乗りたいときに乗ることができない。
- ・先に値段がわかるハイヤーだと安心して使える。
- ・高齢になったときの自動車事故リスクも考え、利用を検討している。
- ・乗り合えば安く乗れると思う。

利用促進について

- ・乗り方講座を開いてほしい。
- ・実際に使っている人から話を聞いてみたい。
- ・広報紙などの言葉や表現がわかりにくい。
- ・ツアーや割引デーなどを設定してほしい。
- ・現在の運行状況が見えるようにしてほしい。

その他

- ・すべてのスクールバスで一般利用できるように仕組みがほしい。
- ・土日や金曜の夜の公共交通の運行を充実させてほしい。
- ・将来は自動運転にすべて任せてもよいと考えている。
- ・老人クラブ主体で試乗体験会を企画したい。

●事業の結果概要

(2) 交通事業者ヒアリング調査

・生産性向上や交通サービス間連携及び新サービスの可能性等を模索するヒアリング、施策・事業の調整を実施を目的に実施。

①地域公共交通計画策定における各種調査の報告共有

「あびら地域公共交通だより(町広報紙内)」による計画策定作業の進捗状況、住民ヒアリング調査の結果やアンケート調査結果、役場全庁職員及び福祉事業所ケアマネージャー対象の課題等調査の結果を説明。

②各種調査結果を受けての質問・意見交換

- ・各種調査結果の傾向と交通事業者で認識している課題との整合等や住民ニーズの反映可能性の検討などについて意見交換したほか、交通事業者の経営の見通しなどの大きな観点に関しても情報交換を行った。
- ・特にバス事業者においては、長期化する新型コロナの影響等による利用者減が地域間幹線の国庫補助要件割れにつながっており、また観光バス事業も需要が回復していない状況から、経営状況が深刻化していることを改めて強く認識することができた。
- ・ハイヤー事業者においては、運転手の応募が皆無で欠員補充できていない状況の長期化と同時に、運転手を確保しても早来地区の売上が極少であり、早来地区でのハイヤー空白解消を望む地域住民からの要請に応えたい思いとのジレンマを抱えている状況を改めて把握した。

③交通事業者において今後取り組みたいと考えている事業等に係る意見交換

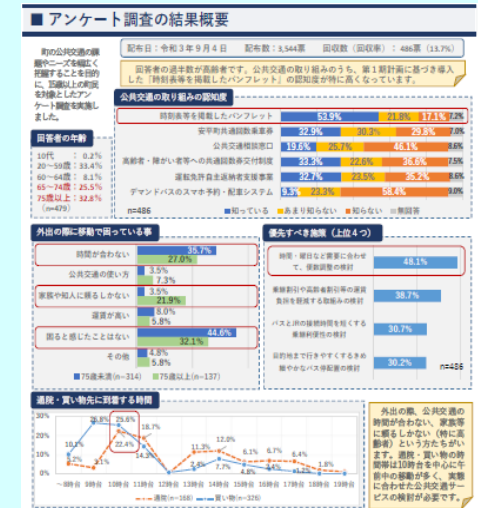
・デジタル化やバリアフリー対策等に関して国の積極的な支援メニューがあるうちでなければ実現は困難であることは認識しながらも、路線や事業の規模の面から費用対効果を見出せず踏み切れない状況。

④交通計画に関する施策等に係る協議・調整

・利便性向上等の住民ニーズを最大限反映し、かつ社会のインフラを担う交通事業者の経営下支えとなるような取組を実現する方策等についてざっくばらんに意見交換した。

(3) 地域公共交通計画(案)策定に向けた取りまとめ

・現在、計画素案の取りまとめを行っており、年度内に素案に対するパブリックコメントを実施する見込み。(現時点の骨子案は、次ページの「地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針」を参照。)



安平町地域公共交通協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

安平町地域公共交通計画の骨子案

基本理念

歴史ある鉄道の維持を基本として、既存輸送資源を存分に活用して、将来の魅力ある地域社会を見据えた便利で利用される公共交通を目指す

- ・町民の足・町外からのアクセスとして欠かすことのできない鉄道をどう維持していくか
- ・町内の移動支援として、維持してきたハイヤーやデマンドバスの運行が人手不足により厳しい中、どの様に維持していくか
- ・既存の資源（人・車両）の活用による移動手段の確保
- ・低炭素でICT技術を活用した将来的にも活用でき、持続可能な地域公共交通

基本方針

移動目的に合わせた適切な公共交通の維持・改善とICT技術等の多様な連携による利便性が高く、持続可能な地域公共交通の実現

総合計画等の上位計画や関連計画のまちづくり計画との連携

基本目標と施策イメージ（案）

幹：幹線（鉄道・路線バス：地域間幹線系統）の利用促進と維持

- シームレスな公共交通体系の維持による公共交通利用者の確保
 - ⇒フィーダー路線との接続性の継続
 - ⇒教育との連携（出前授業、追分高校通学定期券の購入補助等）
 - ⇒鉄道とあつまバスの接続性や使い方の利用促進、待合空間の整備（パスロケーションシステムの導入、デジタルサイネージによる接続環境の見える化、総合時刻表の利活用）
- 関係機関との協議による議論の活性化
 - ⇒交通事業者間連携
 - ⇒道及び沿線協議会事業の推進
 - ⇒室蘭線アクションプラン実行委員会事業の推進
 - ⇒東胆振定住自立圏の推進
 - ⇒福祉や介護との連携
 - ⇒入院医療機関へのアクセス強化検討

枝：きめ細かい支線（循環バス：地域内フィーダー系統）の機能強化

- 現状のルートや運行時間に配慮した、より利便性の高い循環バスへの見直し
 - ⇒循環バスのうち町道部分の自由乗降区間拡充、国道・道道はバス停の配置検討
 - ⇒生活関連施設（公共施設・医療施設・商業施設等）の立地状況に対応した路線の見直し
- 貨客混載運送の導入検討
 - ⇒早来駅物産館と道の駅農産物直売所間の商品輸送
- 移動ニーズに合わせた選択と集中による強弱のある運行形態への変更
 - ⇒運行時間帯の強弱
 - ⇒曜日運行による人材等の確保
 - ⇒路線の短絡化と接続（ニーズや時間帯に応じた運行）
 - ⇒循環バスとデマンドバスとの再編の検討

葉：自由度の高い町内交通（デマンドバス・ハイヤー：ラストマイル）の促進

- 事前登録、利用予約など乗車前の仕組みの改善
 - ⇒事前登録方法の改善（郵送・オンライン等）
 - ⇒MONETの普及推進（報告様式との連携や運用方法の見直し等による業務効率の改善、スマホ教室等開催時のMONET利用推進など）
- デマンドバスの改善とハイヤーによる補完・すみ分け
 - ⇒平日の日中はデマンドバスの活用
 - ⇒即時予約による利便性の確保とAIによる乗合率の向上
 - ⇒デマンドバスのエリア・運行方向（自宅⇄停留所）の限定解除
 - ⇒平日の日中の町外通院ハイヤー利用の町民に対する定額化又は助成サービスの継続検討
- 夜間及び土日のハイヤー利用
 - ⇒月8日以上少日数勤務や兼業希望者、協力隊などの活用及び2種免許資格取得費助成による人材確保検討
 - ⇒デマンドとハイヤーを時間帯ですみ分けることにより人材をシェア
 - ⇒相乗りタクシーの導入検討（使い分け、財源の確保）
- 持続可能な輸送手段確保のための継続的な人材確保、資金調達等の検討
 - ⇒地域による公共交通不便地域における自主的な運行の検討
 - ⇒フィーダー補助等の国・道の補助メニュー適用の継続的検討

横断的な利用促進策の強化による公共交通の維持

- ICT技術を活用した公共交通の利用促進
 - ⇒循環バスのオープンデータ化
 - ⇒MaaSの検討・推進
 - ⇒パスロケーションシステムの導入検討
- 生活交通を中心とする観光二次交通への応用
 - ⇒観光との連携、グリーンスローモビリティの検討（温泉とキャンプ場、乗ること自体も目的になる馬車移動など）
- 企画乗車券や割引サービス等の運賃施策の検討・継続
 - ⇒循環バス、デマンドバス、ハイヤーのサブスク（定額制）
 - ⇒ハイヤー運賃助成の継続実施
 - ⇒ポイントあびら、あびらチャンネルとの連携
 - ⇒共通回数乗車券による高齢者や障がい者助成及び免許返納者支援の継続
- 町民自ら考え、協働による意識の醸成
 - ⇒クロスセクター効果の例示による利用促進・意識醸成
 - ⇒毎年、住民への広報活動や意見交換を実施
 - ⇒総合時刻表の継続的な作成と活用の促進
 - ⇒グループ旅行モデルプランの活用、鉄道等利用促進
 - ⇒買い物ツアーや試乗体験ツアーの実施（買い物、温泉、その他観光とのセット）
 - ⇒活動費助成金の継続

安平町地域公共交通協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

大文字(H、R)は年度を、小文字(h、r)は暦年を表します。また「M」は計画期間中の最大値を表します。

■安平町地域公共交通網形成計画(H29～R3)の数値目標に関する評価

目標を達成した「バスの利用者数」は、循環バスへと再編したことによる利便性向上の成果と、共通回数乗車券等による利用促進策の効果が表れたものと評価。また、「免許返納者数」については、時代の要請にタイミングよく対策事業を実施したことが、目標値を大きく上回る結果につながったものと評価。次期計画においても、関係者がスクラムを組んで、柔軟かつ適時的に実行することが必要。

一方、未達成の「JR駅利用者数」については、次期計画では取組みの見直しや拡充が必要。また、「公共交通の利用頻度」は、高齢化率の上昇により公共交通への期待度や重要度がますます高まることが想定される反面、人口減少により公共交通を必要とする人の数は減少していくという難題を直視し乗り越える必要がある。

基本方針	達成度評価指標	計画策定時の値	目標値	達成度等 (R3は見込み)	
地域内循環システムの効率化	①バス(地域内循環系統)の利用者数の増加	1,593人/年 (H27実績)	2,100人/年	○	3,800人/R3 M)5,026人/R1
	②JR駅利用者数の増加	883人/日 (JR北海道調べ)	923人/日	×	555人/R2 M)725人/H29
デマンド交通の効果的運行	①デマンドバス登録者数の増加	638人 (h28.11月実績)	788人	○	M)861人/R3
	②デマンドバス利用者数の増加	4,567人/年 (H27実績)	6,100人/年	×	3,500人/R3 M)5,792人/H30
	(再掲) JR駅利用者数の増加	(略)	(略)	×	(略)
利用促進策の検討	①時刻表・あびらチャンネル等による情報発信機会の増加	5回/年 (H27実績)	10回以上/年	○	15回/R3 M)18回/R2
	②町民や関係機関の参画による公共交通検討機会の増加	4回/年 (H27実績)	8回以上/年	○	M)9回/R3
町民協働による意識醸成	①免許返納者数の増加(5年間の累計/町把握人数)	4人/年 (h28実績)	21人	○	73人
	②町民協働の公共交通意識の醸成に係る取組数の増加	0件/年 (H27実績)	3件/年	○	6件/R3 M)7件/R2
	③公共交通の利用頻度(週1回以上)の向上	8.3% (H28実績)	13.3%	×	4.4%/R3

●事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

別紙のとおり